

米テロ遺児の癒やしに

版画絵本「千の風に」 現地の支援財団へ50冊

福知山市出身の仏版画家「千の風に」の英語の原詩を家と書家が、「千の風に」ベースに出版した版画絵本50冊が、11日のアメリカ同時多発テロ事件の追悼式に合わせ、遺児を支援するアメリカ・ニューヨークの財団に寄贈された。このほど財団会長から2人のもとに感謝の手紙が届いた。



寄贈された絵本を手を喜びケルソネットイ会長(左)ら

この版画絵本「観瀾斎の千の風に」の作者は、兵庫県丹波市市島町を拠点に活躍する作家の観瀾斎さんのホームページは <http://www.sennokazeni.com/>

勤める仏版画家の観瀾斎(60)と書家の栗原周玉(60)。昨秋、京都市の東寺で展覧会を開いたのを機に、東京の出版社に

勤めている得光義昭さんから版画化の依頼を受け、7カ月間で完成させた。今夏、全国各地やニューヨークの書店で発売された。

発テロで父親を亡くした少女が、事件の翌年の追悼式で、この詩を朗読したことが知られる。今回の版画絵本も日本語、英語両方で表記し、ニューヨークで鎮魂本として話題になっている。このため、得光さんが「絵本を通して世界の人々が少しでも悲しみから癒やされれば」という2人の思いを尊重し、テロ翌日に設立した遺族支援の財団

「チユーズデイズ・テルドレン(火曜日の子どもたち)」に届けた。絵本を受け取った会長のカーマイン・ケルソネットイさんは「この素晴らしい絵本は必ずや子どもたちの心を癒やしてくれると思う。遺児やワールドトレードセンターの復興支援関係者たちに届けた」と手紙につづっている。入場無料。

来月1日から東寺で絵本原画作品展

「千の風に」絵本原画作品展(同実行委員会主催)が10月1日から11月25日まで、東寺で開かれる。原画や四国八十八カ寺、七福神などの作品約160点が展示される。入場無料。